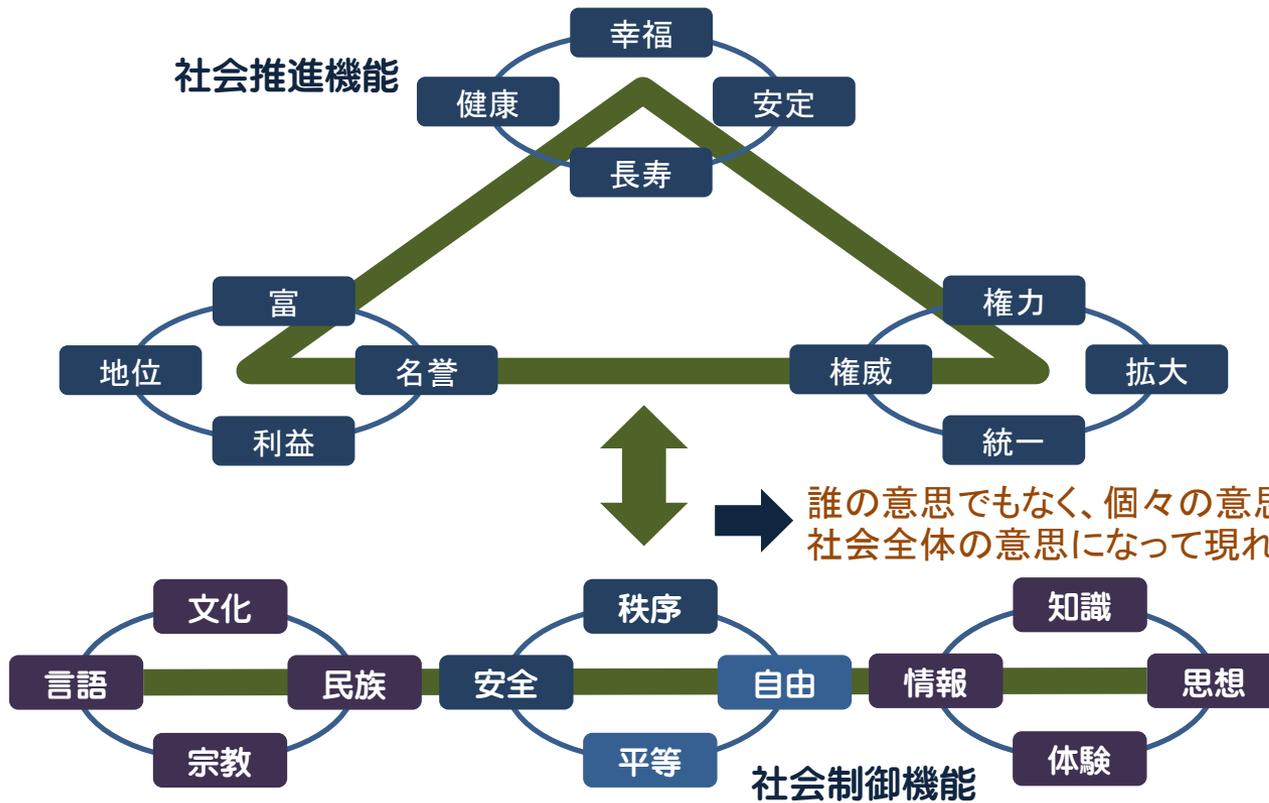


社会の意志



社会の偶像は、個人の意思とか、ある組織の意思ではない。個人、企業、何某かの団体、老若男女の生活が集まって、一つの意味を持つ。総意ではない。同類、反対、矛盾のそれぞれのベクトルが働きあって形態、現象が出来る。これを「社会の偶像」と言う。

個人の意思、組織の意思ではどうにもならない。個人の意思が、社会の意思によって動かされているかもしれない。風土とか、慣習でもない。社会の意思が、体制派と反体制派を作り、無関心も作り出す。そこに、次の社会へ進むようとする潮流が生まれる。潮流も含めて、「社会の偶像」である。

●海外進出が盛んになって、人件費が安く、大きな市場を持つ国へと出ていった。適切な行動だろうが、最適かどうか、10年の歳月を待たなければ正しかは分からない。 ●円安で、輸出業は黒字に転換した。株価が回復して、設備投資が刺激された。新卒採用が軒並み昨年比べて多くなっている。その時流に乗るのは間違いではないだろうが、果たして適切なものか。10年後のリストラのために採用を増やしているかもしれない。 ●人口減少で託児所を増やそうとする。海外からの労働力を受け入れようとする。これらも間違いではないだろうが、最適な選択であるかは分からない。託児所が増えるのは良い。該当数が減ればなくなるだけだ。学校数が減っているように。

社会が動く。国内から国外へ出て行ける道を作ろうとする。海外から人が集まる道を作ろうとする。どこから始まったかは定かでない。誰が仕掛けたのでもない。その意思が社会に働いている。